

# 12月定例記者懇談会

令和7年12月25日(木)

11時00分～11時35分 203会議室

出席者：みのわ新聞、長野日報、伊那ケーブルテレビ、信濃毎日新聞、中日新聞  
事務局：鈴木、小笠原、濱

## 町長月間予定(総務課)

○月間行事予定の説明

## 町の主なトピックス(担当課PR分)

○みのわ健康アカデミー+の募集について(健康づくり推進課健康づくり支援係)

○ウォーキンググランプリ結果報告について(健康づくり推進課健康づくり支援係)

○箕輪町の未来を担う若者応援金について(商工観光課商工係)

○脱炭素都市づくり大賞特別賞受賞について(ゼロカーボン推進室)

○みのわサステイナブルエネルギーPG PR動画について(ゼロカーボン推進室)

## 町長コメント

○令和7年箕輪町主なニュースについて

## 1 み の わ 健康アカデミー+の募集について (健康づくり推進課健康づくり支援係)

### ○概要

別添資料 (p2-3) にて説明

令和7年度に20年目を迎えリニューアルし、今年度同様同じ4コースで募集します。

終了したコースの方からは、もっとやりたい、この後ステップアップした別のコースに参加したいというような好評の声をいただいています。令和7年度全体の参加者数は4コースで88人です。ウォーキングコースとからだメンテナンスコースは定員を上回る応募がありました。夜トレコースは20代の方も参加しています。

実施中のため全体の評価はまだできていませんが、1クール目の夜トレコース、からだメンテナンスコースについては、評価をしたところによると計測数値の改善が全体として見られていることと、痛みやこりという症状について数字を使ってスケールで評価をしており、そのポイントの改善も見られているので、コースを通じて体作りに取り組んでいると評価しています。

## 2 ウォーキンググランプリ結果報告について (健康づくり推進課健康づくり支援係)

### ○概要

別添資料 (p4-5) にて説明

## 3 箕輪町の未来を担う若者応援金について (商工観光課商工係)

### ○概要

別添資料 (p6) にて説明

申請受付が令和8年1月13日からとなっており、ホームページやみのわメイト等で広く若い方に届くような情報発信をしていく予定です。

(町長) 物価高騰に関係しない令和7年度の予算事業ですが、この地域で生まれ育って、この地域で働いている若者たちに対する支援はほとんどされてきませんでした。

最近では、子育て世代への支援策などがありますが、独身の方や子供のいない家庭に対して、なかなか支援が行き届いていません。一方で、IターンとかUターン等が注目され、また大学生には、例えばコロナ禍に大学に行った先まで支援をしていますが、地元で働いている皆さんに対する対応が十分ではないという考え方の中で制度設計したものです。

なかなか制度設計が難しく、時間が経ってしまいましたが、この地域で高校や大学を出て、働いている若者に少しでも支援をしたいことが趣旨です。当初制度設計している時はあまり賃金も上がっていない時でしたが、支援の矛先が地域の若者たちに向いていないこともあって、今住んでいる若者に対して、少しでも支援していきたいという趣旨で設計したものです。

人数について、実際住民票上 400 人位が対象となると思いますが、予算上は今年度 200 万円を計上しています。

(記者) ①現金給付ではなく、みのちゃんカードのポイントにした理由、②令和 7 年 4 月以降を対象としていますが、箕輪で育ってきて昨年度就労し始めた方は対象ではないということですか。また、期間の区分けをした理由があれば教えてください。

(担当) ①みのちゃんポイントの付与にした理由については、今回商工観光課での制度設計となっており、みのちゃんカード事業協同組合と商工観光課との関係もあり、地域の商工業に寄与できる制度設計を商工観光課としては行いたいという中で、地域通貨みのちゃんポイントが既にありましたので、現金給付という形も検討はいたしました。地域にお金があまく回っていく形をとりたいため、選定したものになります。

②今年 4 月以前から働き始めた方については、対象にならない形で制度設計をしています。いつから対象とするか検討する中で、去年の方を拾い出すと、その前もまたその前もということで、予算の限りもある中で皆さんを対象とすることが難しく、今年度の予算計上となっているので、今年度の新規就労から対象とする形としています。

## 4 脱炭素都市づくり大賞特別賞受賞・みのわサステナブルエネルギーPG PR 動画について（ゼロカーボン推進室）

### ○概要

別紙資料（p7-9）にて説明

今回 PPA 方式で整備されたソーラーカーポートとリチウムイオン蓄電池、それから国内最大規模の V2X 双方向充電システムの制御により自家消費を最大化することでゼロカーボンに取り組み、また発電余剰電力を地域新電力会社に売電し公共施設等で利用する計画で、令和 8 年度以降、再エネの地産地消を推進するようになっていきます。資料には記載してありませんが、来年 4 月 1 日から役場周辺と中学校の余剰電力を活用し、町内の 5 施設でこの余剰電力を活用することを進めています。

また V2X で充電された EV を避難所に派遣し非常用電源として活用することで、地域全体の BCP 強化に貢献するなど、地域に好影響を与える取り組みとなっている観点から、事業の規模は大きくないものの、他の小規模都市にも普及しやすいモデルとして高く評価され、選定いただいたところです。

動画については、町ホームページ上にリンクを貼っており、YouTube 上で公開していますので、多くの皆さんにご覧いただきたいと思います。特に事業者の皆さんには是非一つ、二つでも取り組んでいただきたいとともに、ご家庭での設備設置に向けて推進していきたいと思います。

### ○町長コメント

○令和 7 年箕輪町主なニュースについて

別紙資料（p10-11）にて説明

令和7年の町の重要な出来事、記憶に残るニュースとして、10項目を選ばせていただきました。最初に箕輪町発足70周年で記念式典等の記念事業を1年間行い、歴史の重み、意味を振り返る中で、次のスタートができたのではないかとということで、1月からまた71年目に向かっていきたいと思っています。

2番目の脱炭素社会の実現に向けた取り組みの推進について、ゼロカーボンシティ宣言から4年が経ち、具体的な事業が見えてきたと思いますし、町民の皆さんの意識も少しずつではありますが、変化をしてきたと実感しています。

ただ2030年CO2 60%削減という非常に高い目標、ハードルを掲げていますので、記載した事業などを通じて引き続きやっていきたいと思っています。

3番目の災害に強いまちづくりの推進について、能登半島地震の教訓を生かして、避難所の備蓄、住宅の耐震化、水道管の耐震化などを進めました。

一方で大きな災害にはなりませんでしたが、7月、8月に局所的な豪雨があり、町内の一部が被災をしました。改めて災害に強いまちをつくっていかねばいけないと思っています。

4番目にSDGs未来都市に内閣府から選定されたことを記載しました。

特にこの2から4については、策を先送りすることは許されない課題だと思っており、今の時点だけを考えると、やり過ぎることができる内容ですが、今やらなければいつやるのかといった思いでやってきました。

一定の成果とまではいきませんが、具体的なものが出てきたと思っています。

5番目、6番目については幸田町や浜松庄内地区との友好関係に関わるものですが、特に幸田町については、中京地区で交流拠点ができ、今までの災害相互応援協定から一歩進めて姉妹都市として活動していきたいと思っています。

7番目の箕輪町こども計画ですが、こどもに関わるものとして、一昨年条例を、昨年計画を作り、具体的に、今度はこどもまんなか社会をいかに実現するかという実践の年としてやってきました。

8番目のゾーニングを主体としたクマ被害対策ではありますが、全国的に被害が拡大している中で一定の成果が出たと思っていますが、記載のとおりクマの生息区域と我々の住む区域が交わらないようにしていく大変難しい課題に対し、ゾーニングだけではできませんし、藪の刈り払いだけではできないですが、そういったことを地道にやっていく必要があると思っています。

9番目のウェルビーイング TOCO-TON になりますが、これも教育委員会の中で対応いただいています。今までの町の教育はICTから英語から読育から先行していろいろやってきましたが、ふるさと学習を中心にして新しい分野に入ったと思っています。

10番目の菜の花みのわクリニックは民間の施設ではありますが、町の補助事業等を活用させていただいて、クリニックが開院しました。課題であった皮膚科、産婦人科の開院が町民の暮らしに対して安全度を高めることができたと思っています。

これらも様々な課題があるテーマであり、成果が出たというところまでにはいきませんが、町としては本気度を示すことができたと思っています。

まちづくりに一定の手応えを感じるような政策がいくつかできたと思っています。

これでまた新年を迎え、来年は午年ですので、町民の皆さんの明るい未来、希望を持って、充実した一年にさせていただきたいと思います。

もう一点、昨日、教育委員会から報告をさせていただいていますが、学童クラブ指導員による悪質な卑劣な行為について報告させていただきました。

教育行政の信頼を揺るがす行為であることは間違いなく本当に私の立場からも申し訳ない、お詫びを申し上げたいと思っています。

昨日幹部職員を集めて庁議を行い、今までの経過について説明し、二度とこういったことが起きないような仕組み、研修等を通じて、法を守る、そして子供たちを守るといった気持ちを改めていただきたいという話をしました。

今後のことについては、教育委員会、総務課の方でも考えながら、職員教育は徹底していかなければいけないと思っています。

会計年度任用職員ですので、難しいところもありますが、採用の段階で、また事業を行う段階においてそれぞれの立場で十分に見ていかなければいけないと感じました。

ベテランの職員で、今まで信頼を置いてやってきた職員ですので、大変恥ずかしい限りですが、これを機にまた気を引き締めてやっていきたいと思っています。

私の立場でも大変申し訳なかったと思っております。

1年間お世話になりまして、ありがとうございました。

(記者) 先日のプレスリリースにあった箕輪産米を来年度から給食で提供する件について、実施に移していくにあたり、町長としてこの取り組みへの思い、意図と実施に向けて一言コメントいただきたいと思います。

(町長) 今までも地産地消を進める中で、米については上伊那産米でやってきました。できればこの箕輪の地で、水でできたお米をこどもたちに食べていただきたい、食していただきたいということで、何とかできないかということをしてきました。

ただ、JAのライスセンターでは、箕輪産だけではなくて上伊那産全体が混ざってしまい、箕輪産だけ取り出すことができないと言われていましたが、それを何とか少し経費をかけることで、限定して箕輪産ができれば、本当に箕輪のこどもたちが箕輪のお米を食べて、大きくなっていくということをぜひ実現したいと思っていました。

精米の関係で少し遅れるようですが、できるだけ早くこのことを伝えていきたいと思っています。

米は主食ですので、箕輪産の米をこどもが食べていることをこどもたちに気づいてもらいたいとともに、また今お米がいろんな形で世間を騒がせているので、町民の皆さんにそういったことを町が取り組んでいることを示していきたいということで取り組むものです。